

# 病理診断部

■手島 伸一

■武田 宏太郎

■工藤 まどか

## 2015年の活動状況

病理診断部はルーチンの病理組織診断はもちろん、CPC、カンファランスほか病理に関する様々な活動を行っている。

### ①病理診断の内訳

病理組織診断は、臨床医が最終診断を決めるために非常に重要な検査であり、早期かつ正確な報告が病理診断部に求められている。2015年の実績は年間9,376件の組織診、11,126件の細胞診、170件の迅速診断、20件の剖検を行った。これは全国でも屈指の病理検体数である。病理診断部のスタッフは、4名の常勤臨床検査技師（うち2名は細胞検査士）、病理専門医（細胞診専門医）1名、病理後期研修医2名が在籍している。他に非常勤病理医3名、非常勤細胞検査士1名である。とくに検体数が通常より過剰な際には、検査科からの技師の応援を仰いでいる。優れた標本の作製と診断力の向上のために、病理専門医、臨床検査技師、細胞検査士の育成に努めている。

### ②2015年度の品質改善指標

2015年度の病理診断部の目標は外注率を減らすこととした。外注率を減らすことは、病理診断レベルの向上、報告までの期間の短縮、外注業者への受注費用の軽減などの大きな効果がもたらされる。2015年の年間の組織診断の外注率は12%、細胞診の外注率は60%であるが、現在（2016年8月）は、組織診断は10%、細胞診は0%の外注率である。組織診の外注率がやや横ばい状態であるが、低減に向けてのさら

なる努力が求められる。

### ③CPCの充実

2015年のCPCは10回行った。初期研修医に対し、剖検症例の肉眼所見や組織所見の読み方を指導し、初期研修医が自ら病理所見を発表できるように指導している。当院のCPCは回数、内容などからみて、全国的にも優れたものと考えており、さらに充実させるよう努めている。

### ④カンファランスの充実

病理が参加しているカンファランスは以下のとおりである。

- ・消化器病カンファランス：毎週火曜日
- ・乳腺病理カンファランス：毎月
- ・婦人科病理カンファランス：3か月毎
- ・血液・リンパ腫病理カンファランス：3か月毎
- ・呼吸器病理カンファランス：毎月
- ・CPC：毎月
- ・腎病理カンファランス（外部講師をまねいて）：年3回
- ・消化器病理カンファランス（外部講師をまねいて）：年3回

### ⑤初期研修医などへの病理の指導

初期研修医や後期研修医に対して短期間の病理ローテーションをうけている。2015年度は1名、1か月間の短期ローテーションがあった。それ以外にも臨床各科からの病理に関する問い合わせ、病理標本の写真撮影の指導など、病理全般に関し、広く協力や指導を行っている。

---

## ⑥2015年病理診断部の業績

(病理診断部が筆頭者のみ)

### 著書

1. 手島伸一：非浸潤性インプラントを繰り返す卵巣漿液性境界悪性腫瘍. 癌診療指針のための病理診断プラクティス. 婦人科腫瘍. (青笹克之, 本山悌一編), 中山書店, 2015, pp358-363.
2. 手島伸一(分担執筆)：細胞診ガイドライン1 婦人科・泌尿器 2015年版, 金原出版, 2015.

### 編集

1. 手島伸一：乳癌病理診断の進歩. 臨床検査 59(5), 2015.
2. 手島伸一、森谷卓也：卵巣腫瘍Ⅰ－病理の新しい考え方. 病理と臨床33(9), 2015.
3. 手島伸一、森谷卓也：卵巣腫瘍Ⅱ-病理診断の実際. 病理と臨床 33(10), 2015.

### 論文

1. 手島伸一、森谷卓也：卵巣腫瘍の新WHO分類. 病理と臨床 33, 932-937, 2015.
2. 手島伸一：新WHO分類に沿った肉眼観察. 病理と臨床 33, 1058-1064, 2015

### 学会発表

1. 武田宏太郎, 手島伸一：左鼠径リンパ節転移から見つかり, 原発巣の診断に苦慮した左足底悪性黒色腫の1例. 神奈川県病理医会, 横浜, 2015, 1.
2. 岸宏久, 手島伸一, 他：DLBCLの既往があり, その後EBV陽性形質細胞腫瘍, 引き続きEBV陽性DLBCLが発生した1例. 日本病理学会総会, 名古屋, 2015, 4.

### 講演

1. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理—新WHO 分類の解説と批判—. 日本病理学会北海道地方会, 札幌, 2015, 9.
2. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理. 21世紀に入って変貌し

た疾患概念. 日本病理学会秋季総会, 東京, 2015, 11.

3. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理. 徳洲会病理研修会, 名古屋, 2015, 11.
-